

ズーム・アップ・カメラ・アイズ

戦災復興のシンボル 「名古屋テレビ塔」

(愛知県、名古屋市)

Consultant
会誌編集専門委員会

人気スポット

昨年5月22日に開業した今や人気の東京スカイツリー。でも半世紀以上も電波を送信してきたのは1958年12月23日開業の東京タワー。しかし、テレビ放送用集約電波鉄塔としての日本最古は「名古屋テレビ塔」である。1954年6月20日に名古屋市中心部の久屋大通公園に開業した。

前年2月にはNHKテレビの本放送が始まり、テレビ時代の幕開けに合わせて名古屋テレビ塔は建設されたわけである。142mの鉄骨トラスに38mのアンテナを載せた全高180mは、開業当時日本一の高さであった。名古屋の戦災復興のシンボルで、「国土の歴史的景観に寄与しているもの」として2005年に文化庁の登録有形文化財に登録された。

塔には地上90mに屋内展望台「スカイデッキ」

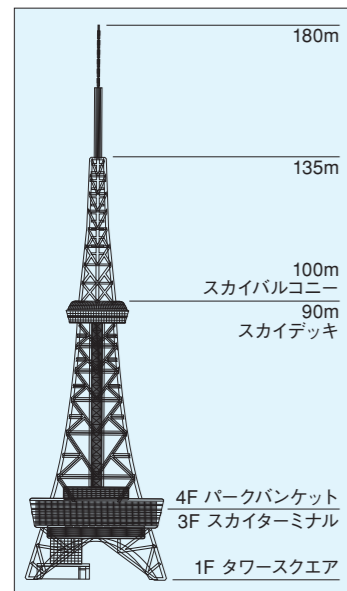


図1 テレビ塔略図



写真1 開業時のテレビ塔全景

ッキ)、100mに後年つくられた金網で囲まれた屋外展望台「スカイバルコニー」があり、名古屋市街や御嶽山などの眺望が楽しめる観光タワーとしても人気を集めた。開業当時の大人の展望料金は50円であった。今でも名古屋における優れた観光施設であることに変わりはなく、夜には美しくライトアップされる。夜の展望台は、2002年に久屋大通公園に隣接して開業したオアシス21の大屋根と並び、カップルたちの人気スポットの一つとなっている。夏の夜には足元でビアガーデンが開業。

テレビ塔建設

第二次世界大戦末期の空襲により名古屋市街地のほとんどが焦土となり、早い戦災復興が市民の悲願となっていた。そのため久屋大通と若宮大通の2本の100m道路の整備計画にあわせて、テレビ塔建設構想が打ち出された。それは日本でテレビ放送が開始されることを機会に、全国に先駆けた東洋のエッフェル塔を建設しようというものであった。

官民が共同出資した名古屋テレビ塔株式会社が1953年7月に設立され、9月には着工した。総重量3,300tの鉄骨トラス構造の塔は、4脚が末広がりになっている。トラスは山形鋼と平鋼を組合せて、リベットやボルトで留めて組み上げた。「塔の直下に地下鉄を通す」ことを条件に建設されたため、4脚の基礎は深さ6mまでしか埋められていない。将来の地下鉄工事に備えるため、だるま式構造と呼ばれる、4脚を鉄筋コンクリートのアーチで結合して固め、重心を下げる方法も採られている。直下の地下鉄名城線は1965年に開通した。

塔は、航空法の制定前に完成したことや最上部に航空障害灯を設置したことで、完成当初から赤白塗装(昼間障害標識)ではなくシルバー塗装となっている。約7年毎に行う塗替え費用には約2億円かかるらしい。

設計者

塔の構造設計は内藤多^{ちちゅう}仲が担当した。1910年に東京帝国大学を卒業し、1917～1918年にアメリカへ留学。1924年『架構建築耐震構造論』で工学博士号を取得。名古屋テレビ塔の後、東京タワーや2代目通天閣など多数の鉄骨構造の設計を手がけ「塔博士」とも呼ばれた。1970年永眠。

塔の高さは、放送アンテナ・送信施設・展望台などの施設に対する耐震や風圧を総合的に判断して200m以下が望ましいと結論し、さらに安全性を考えて180mとしたようだ。



写真2 オアシス21の大屋根から望むテレビ塔



写真3 スカイバルコニーから望むオアシス21



写真4 久屋大通公園とセントラルブリッジ



写真5 開業時の順番待ちの列



写真6 鉄骨がアクセントのレトロな結婚式場



写真7 足元にあるビアガーデン

電波塔として

開業日から2011年7月24日まで、この塔から地上アナログテレビの電波を送信していた。地上デジタルテレビの電波は、名古屋テレビ塔が築50年以上経過しており、デジタル用の送信アンテナを設置するには強度不足と判断され、瀬戸市に建設された瀬戸デジタルタワーを利用することになった。そのため、名古屋テレビ塔は電波塔としての役割を一旦終えた。しかし、2012年4月1日からスマートフォン向けマルチメディア放送の電波が送信され、再び電波塔としての役割を果たすことになった。鉄骨トラスの塗装塗り替えやレストランと展望室の改修等を行い、4月26日にはリニューアルオープンとなった。

塔内には、空き家になったアナログ時代の各放送局の発信装置部屋がある。塔の耐震補強を行わないと再利用ができないと聞き、なんとも残念な気がした。また、シルバー塗装の鉄骨むき出しのレトロな結婚式場やパーティー会場もユニークである。1955年に展望台で行われた「空中結婚式」の披露宴はここが会場だったのだろうか。

地上30mのエレベーターホールから90mのスカイデッキまでは、外側に設置された階段で昇降できるようになっており、「スカイウォーキング」として毎月決まった日に一般

に開放されている。外階段は落下防止用の金網で囲まれているだけで、風の弱い日でもかなりの風を感じる。さらに足元から地上が見えるため、高いところが苦手な人は良く考えた方がいい。

(文 塚本敏行)

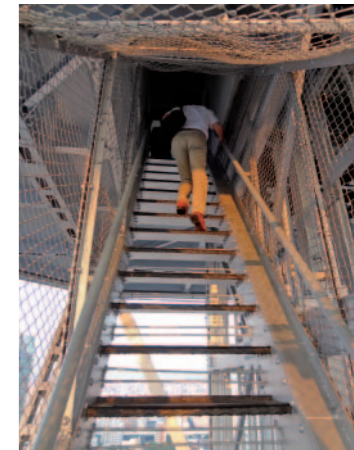


写真8 スカイデッキにあと一息で到着

<参考資料>

- 1) [名古屋テレビ塔 50年のあゆみ]名古屋テレビ塔株式会社 2004年6月
- 2) [名古屋テレビ塔ホームページ](http://www.nagoya-tv-tower.co.jp/index.html)
- 3) [NAGOYA TV TOWER]名古屋テレビ塔パンフレット
- 4) 愛知県教育委員会「文化財ナビ愛知」(http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/bunka/bunkazainavi/index.html)

<取材協力・資料提供>

- 1) 名古屋テレビ塔株式会社

<図・写真提供>

- 図1、写真1、5 名古屋テレビ塔株式会社
写真2、7 佐々木勝
写真3、4、8 塚本敏行
写真6 大波修二